

「基地移設問題」が迷走、 心配される「日米同盟」。

沖縄の基地移設問題が迷走している中、鳩山総理の「仰天発言」で混乱に拍車。日米の信頼関係に亀裂が入ることが心配されている。政府はこれ以上結論を先送りするのではなく早急に事態の收拾を図るべきである。

食い違うこれまでの閣僚の発言！

- 基地問題移設に関して鳩山内閣の主要閣僚の不用意な発言が相次いでいる。解決が長引くことは国益を損なうことであり、日米首脳会談を機に早急に決着を図るべきである。

鳩山代表（当時）	➡	海外移転が望ましいが、最低でも県外移設が期待される。
北沢防衛大臣	➡	県外や国外移設だとかなり時間がかかる。
鳩山総理大臣	➡	マニフェストは一つの約束だが、時間で変化する可能性は否定しない。
岡田外務大臣	➡	県外という選択肢は考えられない。嘉手納との統合も一案だ。
岡田外務大臣	➡	できるだけ年内に結論に至りたい。（沖縄訪問の際）

米国との信頼関係が危ない！

- 鳩山総理は、日米首脳会談での基地移転問題に関し、「オバマ大統領とすれば日米合意を前提とっていただろうが、それが前提なら作業グループを作る必要がない。」と発言。オバマ大統領は日本での演説で、「すでに達した合意を履行するためのものだ」と述べており、大統領への背信ともいえる言動である。

名護市長選後への結論先送りは、国の責任の放棄！

- 鳩山総理は基地移設問題について、「名護市長選の結果を重視する」と言っているが、これは国の責任を放棄して名護市民に押し付けるもの。いたずらに市民の対立を煽り、混乱に拍車をかけることは、無責任そのものである。

わが党は、平成 18 年 5 月に日米間で合意された現行案を
粛々と進めるべきであると考えます。